

---

# IR部門に期待される役割と人材の育成

2024年2月21日

日本IR協議会  
専務理事 佐藤淑子

本資料で紹介した企業事例やデータなどは受講者のみなさまの参考にしていただくために掲載したものです。また、意見に該当する部分は、所属団体を代表するものではないことにご留意願います。

本資料の内容を無断で転載、活用することを禁じます。



- I. IRが果たす役割**
- II. IR活動の実際とIR部門**
- III. IR人材育成に向けた取り組み**
- IV. まとめ**

# Ⅰ. IRが果たす役割

**Investor Relations=「投資家向け広報」と訳されるが、目的は、双方向のコミュニケーションを通じた株主・投資家との信頼関係づくり**

**企業にとっては、中長期の「企業価値」を向上するために**

**投資家にとっては、情報に基づく的確な分析・判断と建設的な対話のために**

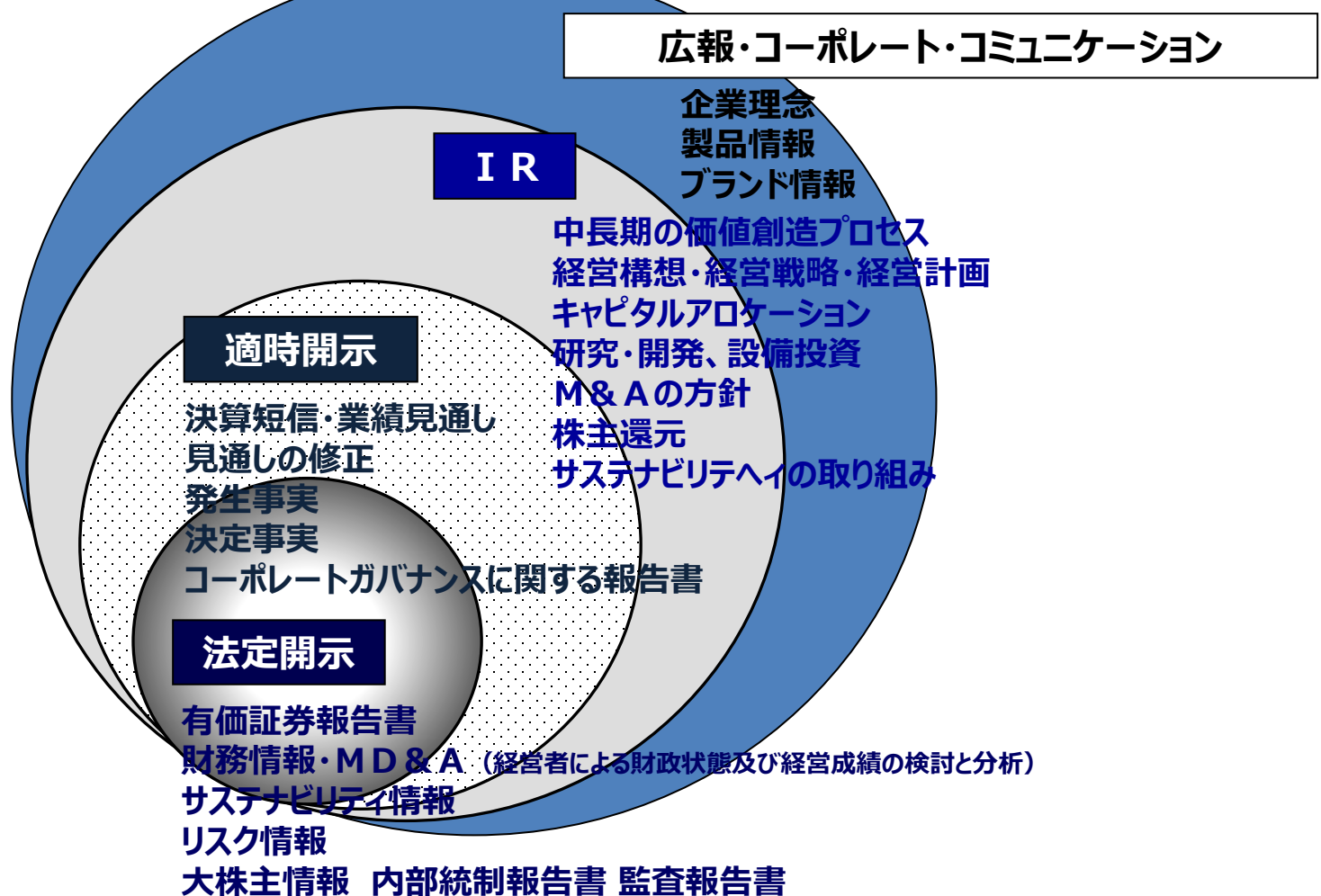
**資本市場にとっては、リスクマネーの安定した供給と、適正な価格形成のために**

**開示と対話を推進し、よりよい将来をつくる**



# ◆ 【基本1】適切な情報開示

◆ 投資家が必要な情報を開示した上で、理解を深めるように工夫する



わかりやすく将来の姿を示す

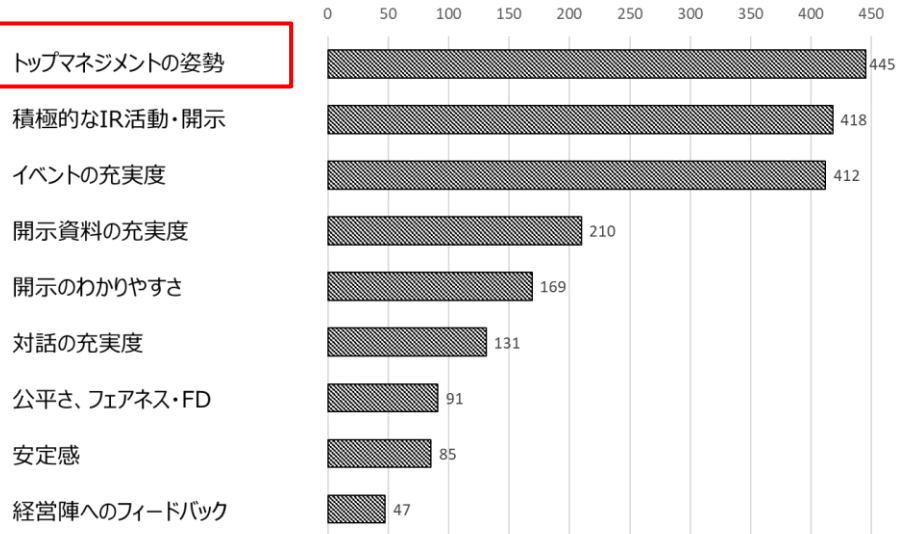
ネガティブ情報も開示を求められる

# ◆ 【基本2】 企業経営を支える

## ◆ 対話によって経営を高度化

- **今年2月、メガトレンドからバックキャストした中長期経営方針を策定、開示いたしました。**この方針は、将来目指すべき事業ポートフォリオに加えて、サステナビリティと経営の統合、デジタル・トランスフォーメーション（DX）をビジネス・トランスフォーメーションと捉えたイノベーションの推進、研究開発（R&D）機能の強化といった**3つのコア戦略、そしてそれらを支える経営基盤の強化として人的資本の強化とグローバルガバナンスの進化から構成するものです。**この方針についても、資本市場の方々と対話を行ってきました。
- **本年は大幅かつ急激なコストアップに見舞われる大変厳しい経営環境に置かれています。**この件についても、資本市場の方々に対して、速やかに当社の影響と対策についてご説明して、ご理解いただけるよう**建設的な対話の強化に努めて参りました。**（中略）。私どもの事業が社会に与えるポジティブあるいはネガティブなインパクトがあるなかで、**どういった投資をして、どういったリターンを得るか、あるいは、ネガティブインパクトの低減を行うのか、そうした中長期的に企業価値を向上させる取り組みについてもっと対話していきたい**と思っています。資本市場の方々との対話は、時には**大変厳しいご指摘をいただくこともございますが、そうしたご意見は私どもの経営の高度化にとって欠かせない**と思っています（後略）。
- （アサヒグループホールディングス代表取締役社長 兼 CEO 勝木 敦志 氏）日本 I R 協議会「I Rメルマガ」特集「I Rカンファレンス2022 I R優良企業大賞受賞メッセージ」

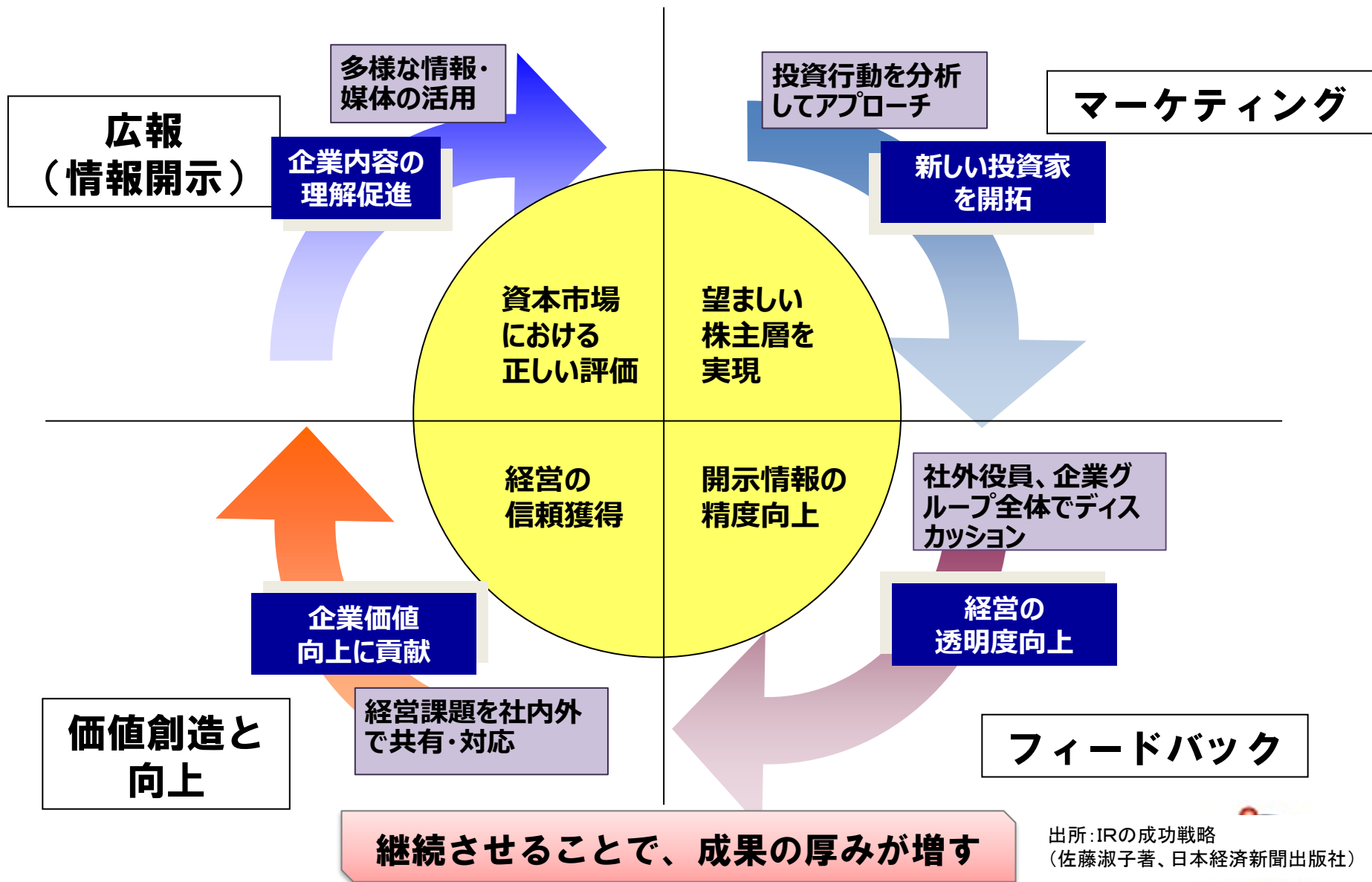
### I R 優良企業賞審査における主な専門委員評価コメント



出所:日本 I R 協議会「I R 優良企業賞2022」第2次審査集計結果から作成

## I Rは経営のストラテジック・パートナー

# ◆ 【基本3】 企業価値創造・向上に貢献（IRの発展サークル）



## ◆ IRとは・・・

- ◆ IRとは、企業が資本市場に対し、投資判断に必要な企業情報を**適時、公平、継続**して提供する活動です。制度的な情報開示にとどまらず、**自主的に**説明を加えたり、表現を工夫したりして、投資家の理解を促します。企業は資本市場で適切な評価を受け、資金調達や事業投資などの**戦略**につなげることができます。
- ◆ IRは、企業と投資家が**建設的**な関係を築くための**コミュニケーション**活動です。企業は投資家の意見を経営に反映させ、成果は投資家に還元されます。企業にとっては経営の一部であり、**企業価値向上の拠点**といえましょう。
- ◆ 投資家の信頼を得るには、**ルールや規範を守る**ことも大切です。IRは**信頼性と戦略性を兼ね備えた活動**であり、基本ルールを守った上で、**企業の独自性を発揮する活動**なのです。

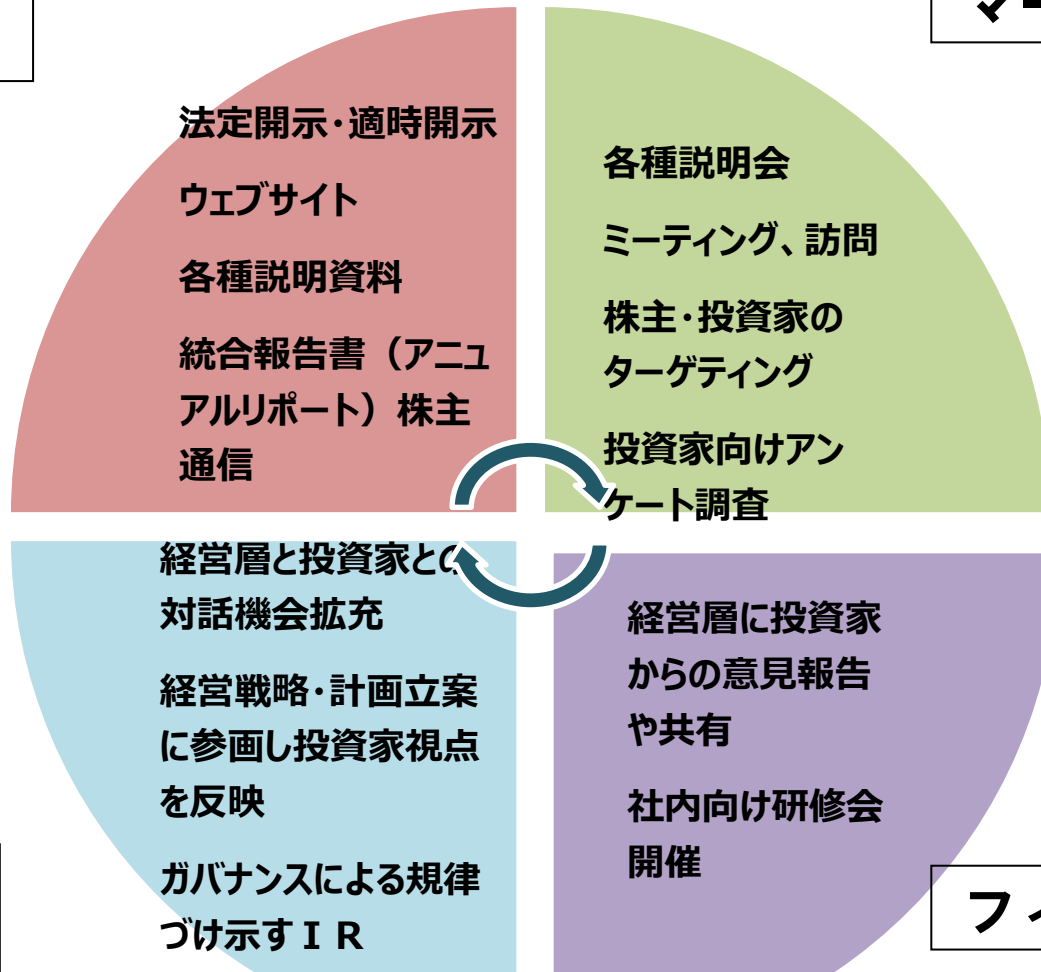
適切な情報開示と建設的な対話

## II. IR活動の実際とIR部門

広報  
(情報開示)

◆ 4つの機能に即してみると

マーケティング



価値創造と  
向上

フィードバック

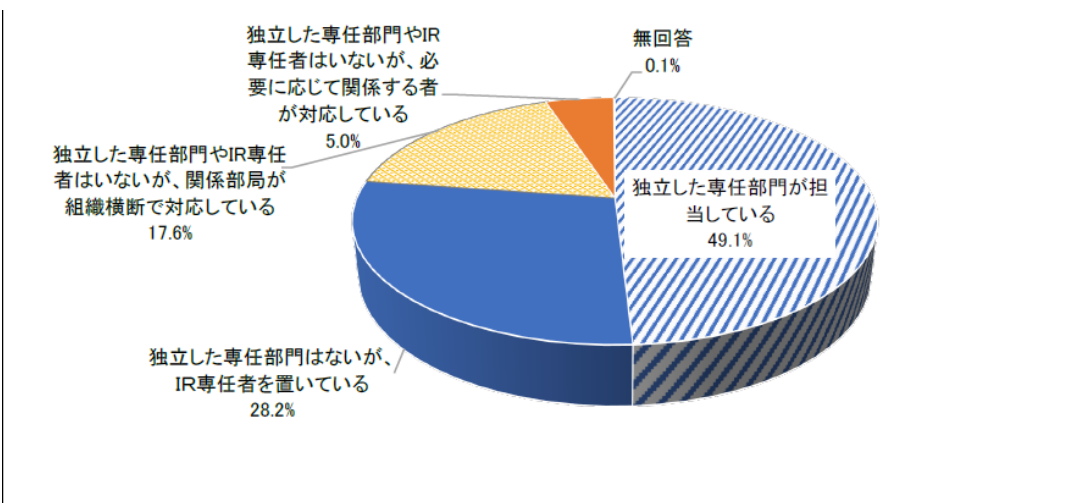
活動量増大から内容の充実へ





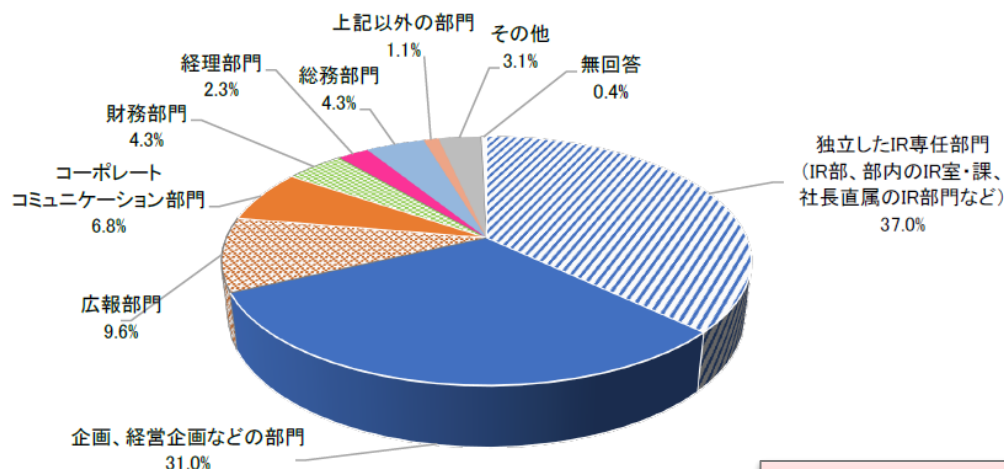
# ◆ I R部門の設置状況（上場企業を対象にした調査結果から）

## I Rの専任部門・専任者の有無（n=1013）



| プライム上場企業 | 独立した専任部門が担当している | 独立した専任部門はないが、IR専任者を置いている | 独立した専任部門やIR専任者はないが、関係部署が組織横断で対応している | 独立した専任部門やIR専任者はないが、必要に応じて関係する者が対応している | 無回答  |
|----------|-----------------|--------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|------|
| 702社     | 58.1%           | 26.8%                    | 12.1%                               | 2.8%                                  | 0.1% |

## I Rの専任部門名（n=783）



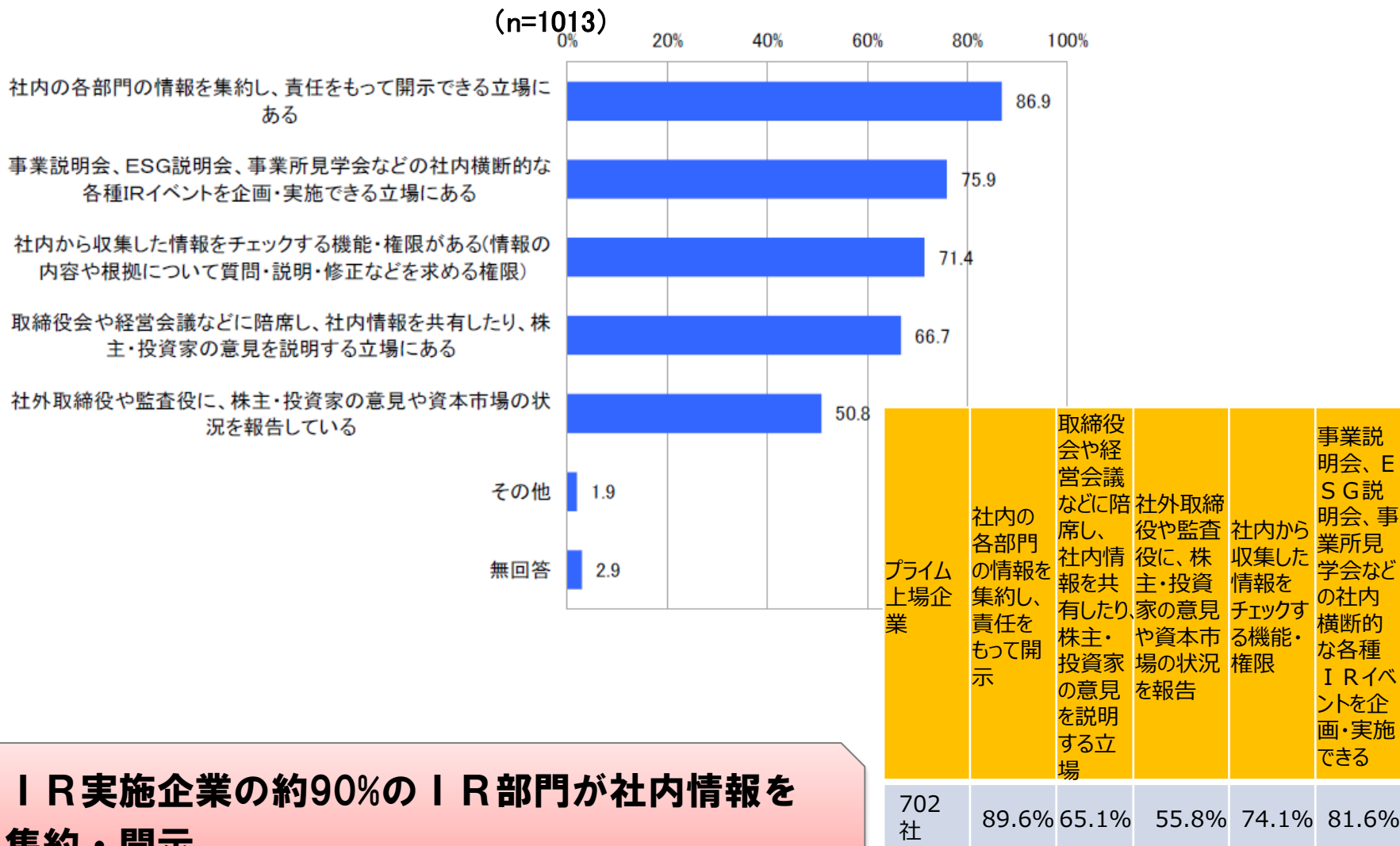
| プライム上場企業 | 独立したIR専任部門 | 企画、経営企画などの部門 | 広報部門  | コーポレートコミュニケーション部門 | 財務部門 |
|----------|------------|--------------|-------|-------------------|------|
| 596社     | 43.3%      | 25.2%        | 11.4% | 8.2%              | 4.2% |

| 経理部門 | 総務部門 | 上記以外の部門 | その他  |
|------|------|---------|------|
| 2%   | 2.5% | 0.5%    | 2.3% |

出所：日本 I R協議会「I R活動の実態調査」（2022年4月）

**I R実施企業の約50%が I R部門を設置**

# ◆ I R 部門の権限や立場（上場企業を対象にした調査結果から）

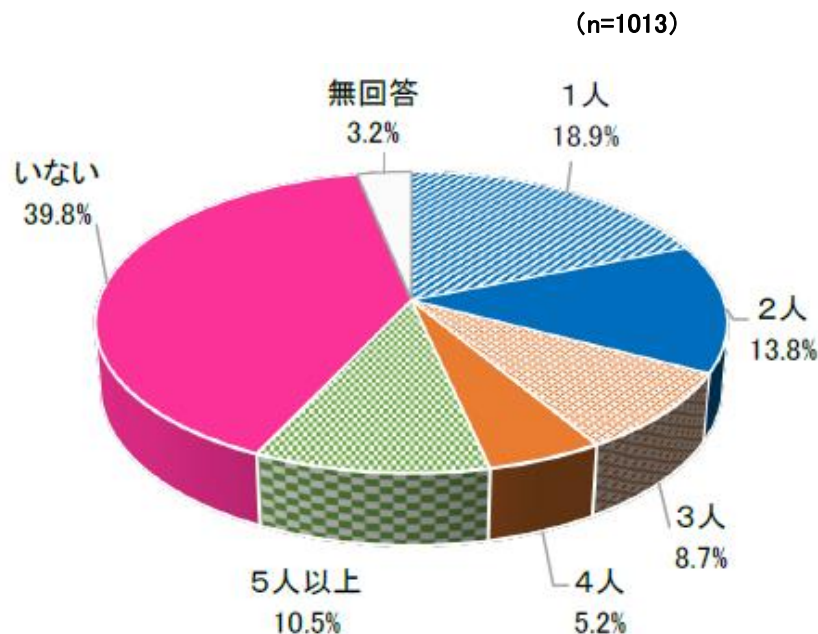


**I R 実施企業の約90%の I R 部門が社内情報を集約・開示**

出所：日本 I R 協議会「I R 活動の実態調査」（2022年4月）



## ◆ I R 専任者の人数（上場企業を対象にした調査結果から）



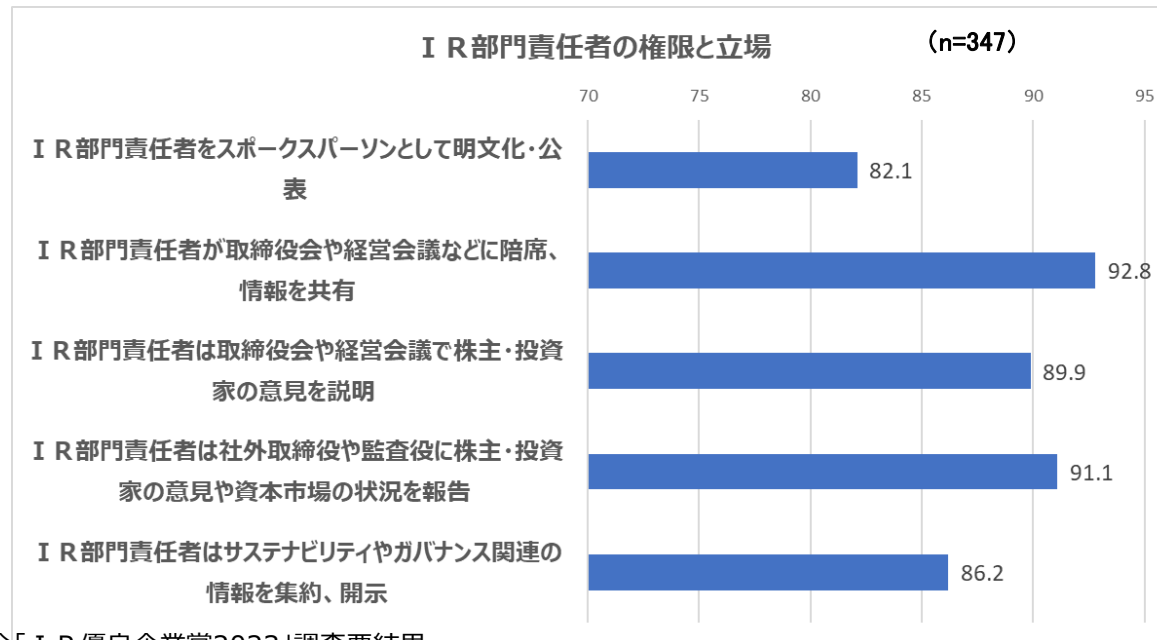
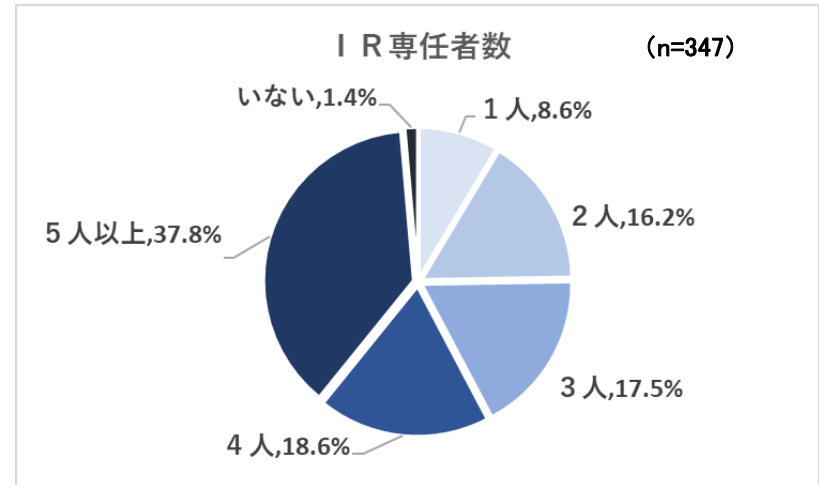
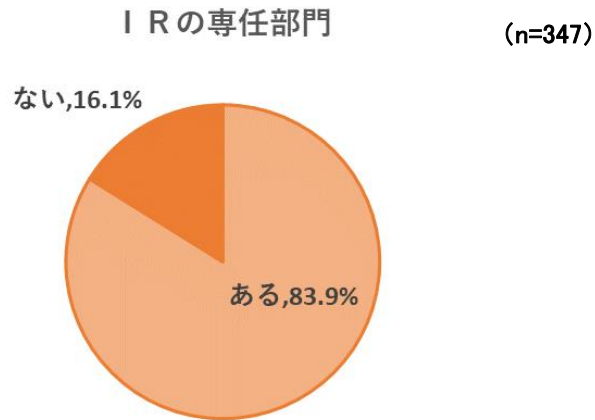
| プライム<br>上場企<br>業 | 1人        | 2人        | 3人    | 4人   | 5人以<br>上  | いない       |
|------------------|-----------|-----------|-------|------|-----------|-----------|
| 702<br>社         | 17.2<br>% | 17.1<br>% | 11.1% | 7.3% | 15.1<br>% | 29.5<br>% |

**I R 実施企業の約40%が専任者をおいているが  
人数は限定されている**

出所：日本 I R 協議会「I R 活動の実態調査」（2022年4月）



# ◆ベストプラクティスを目指す I R 部門 （「I R 優良企業賞」応募企業を対象にした調査から）

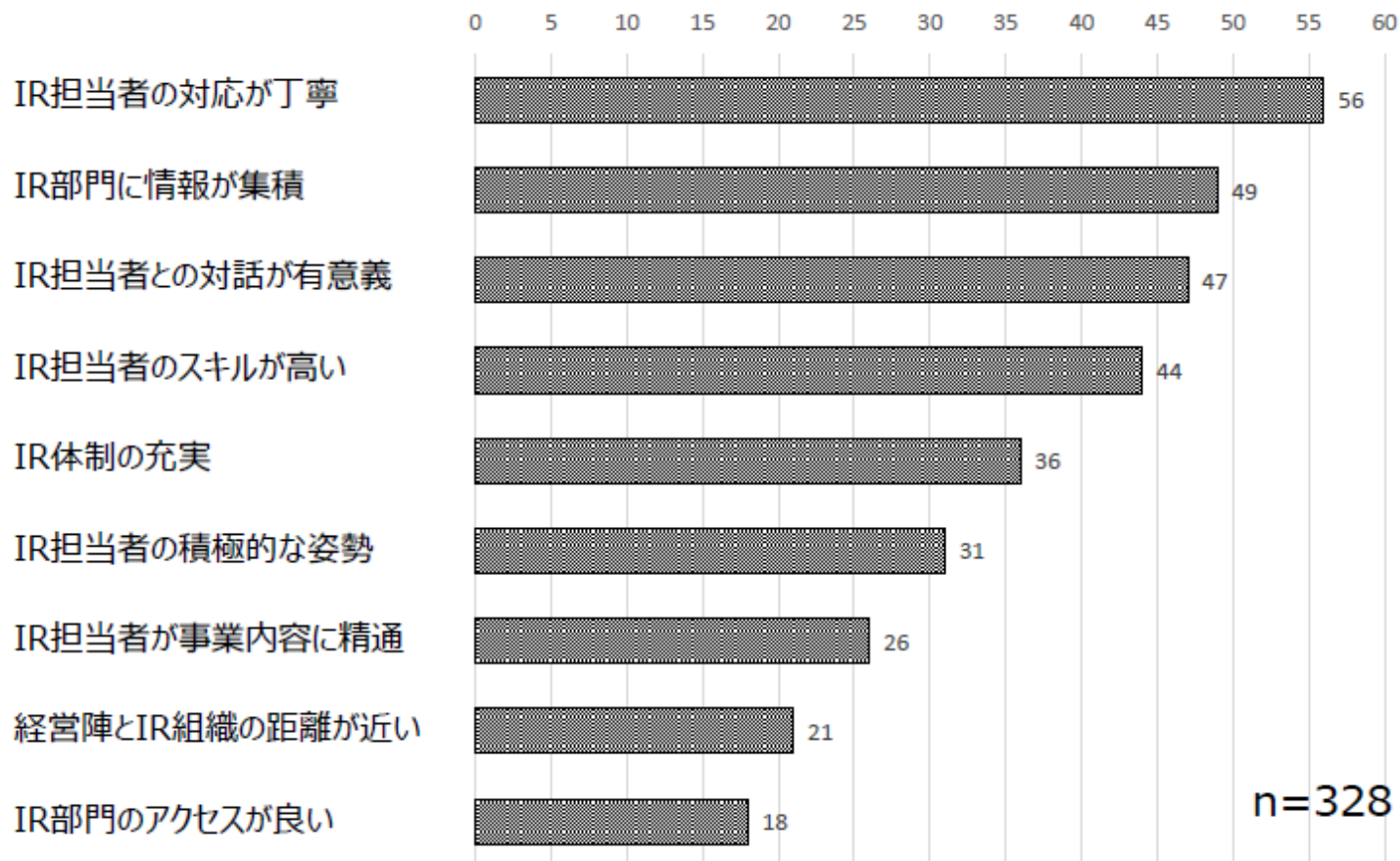


出所：日本 I R 協会「I R 優良企業賞2023」調査票結果



## ◆ ベストプラクティスを目指す I R 責任者・担当者に対する評価 (「I R 優良企業賞」審査における評価から)

### 「I R 組織・体制」「I R 責任者・担当者」を評価する専門委員コメント



出所：I R 優良企業賞2022第2次審査結果



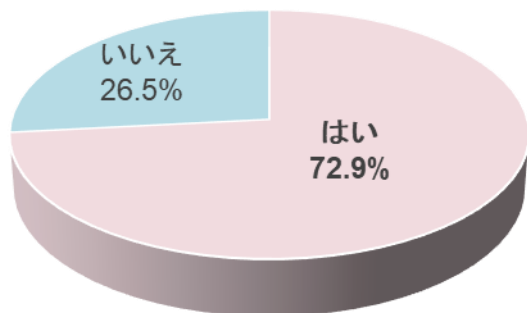
# Ⅲ. IR人材育成に向けた取り組み

## ◆ IR専任者に期待されるスキル

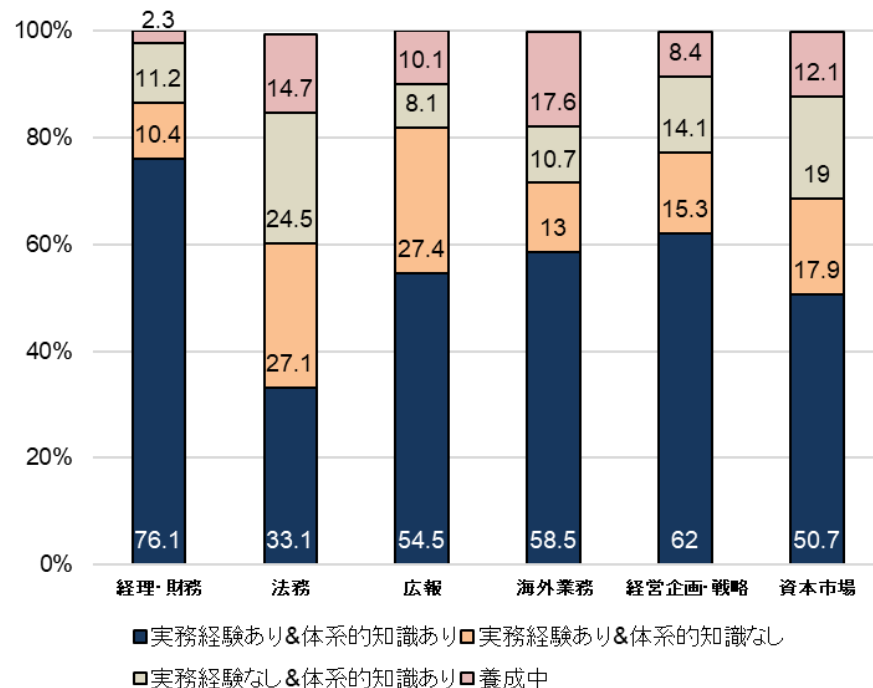
(「IR優良企業賞」応募企業を対象にした調査から)

- ①財務・経理・資本市場・関連法規の知識
- ②自社の経営の方向を大局的に把握する力
- ③社内外とのコミュニケーション能力

IR部門は、他部署向けのIR研修や勉強会、報告会を行っていますか。(n=347)



IR担当者のなかで、以下にあげる専門知識や経験を備えている人はいますか。(n=347)



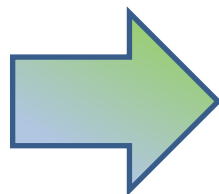
出所：日本IR協議会「IR優良企業賞」調査票集計結果（2023年）

# ◆ 「共感！ I R 賞」に選ばれた企業の取り組み

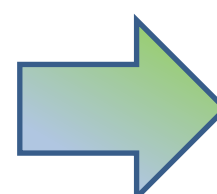
【2023年のテーマ】「 I R 部門の人材育成とパワーアップのための取り組み」



取り組んでいる活動を・・



企業間で共有  
投票で「共感！ I R 賞」選定



「もっとやってみよう」





# まとめ

- ◆ IRは、適正な評価や企業価値向上につながるコミュニケーション活動である。多くの企業は「適切な情報開示」「企業経営を支える」「企業価値向上・創造に貢献」というIRの基本を踏まえて活動に取り組んでいる。
- ◆ IR部門の名称は企業によって様々だが、投資判断や分析に役立つ情報を集積していること、IR責任者・担当者が的確に説明・対話できることが大切である。経営層の理解のもとに組織・体制の整備が期待される。
- ◆ IRに対する理解と協力を高めるために、社内とコミュニケーションするIR部門も増えている。英文開示に向けては、効率的に資料を作成し、IRスタッフのスキルアップも目指す取り組みが広がっている。
- ◆ 日本の株式市場への注目が高まるなか、これからもIR部門のパワーアップとIR責任者・担当者の活躍が期待される。





---

**ご清聴ありがとうございました**

